

## 女子中学生と武道 一 前向きに元気になれる



近年、文部科学省の方針に基づき中学校での武道教育が必修とされているが、その効果については明らかにされていない。

他方、女性の社会的進出が著しい中、若者の自殺、とりわけ20代の女性の自殺が急増し社会問題化している。

自殺の理由は、外的要因と内的要因とに分けられるが、内的要因の一つとして精神力の弱さが指摘されている。

既存の学校教育で克服できない問題を補完するのが武道教育である。

武道は精神力を高める効果が高い。

己の弱さを知り、強くなろうとする過程で若者の精神力を鍛えられる。

武道界は五輪や試合以外で若者の精神力を鍛えることで国家社会に貢献しなければならない。

また優れた武道は、若者の精神力を鍛えられるという教育効果を周知させる必要がある。

しかし、一部とはいえ「粗暴になる」とか「野蛮だ」とかいう偏見が遺憾ながら根強くある。

地道な発信が不可欠であり、他のスポーツ等で教育効果が得られず悩んでいる親達に本誌を通じて希望を与えるべきである。

だが通常、雑誌が取り上げるのは一流のアスリート女子の経験談であり、

一般的な親からすれば普遍性が足りず、従って説得力が足りない。

そこで今回、JTAに小学生の頃から所属し、第26回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会に選ばれた女子中学生4名にスポットをあてた。

司会 愛川ゆず季 (初段。渋谷テコンドークラブ所属)

①**福島良菜**（福岡筑紫野テコンドークラブ、初段、中2）

第25回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子中学生組手優勝

第26回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子中学生組手および一般型出場

②**和田桐佳**（福岡筑紫野テコンドークラブ、初段、中3）

第26回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子中学生組手出場

③**斉藤未有**（福岡筑紫野テコンドークラブ、初段、中2）

第26回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 女子中学生組手および団体戦型出場

④**神谷優希**（愛知大府テコンドークラブ、初段、中1）

第26回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 少年少女型および団体戦型出場

実施日 2015年11月28日（土）

場 所 第26回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会会場 後楽園ホール